

SDGs 達成の担い手育成事業

「自分ごと」からはじめよう 地域とともにSDGsの達成に向けて

子供たちは保護者・地域・企業・大学と一緒に、身近なところからSDGsについて学習し、行動に移しています。

SDGs 未来都市としま

豊島区は2020（令和2）年に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に東京都で初めてダブル選定されました。

2022（令和4）年に区制施行90周年を迎えた豊島区は、次の100周年に向けてSDGsへの取組を推進し、誰をも受け入れ、誰からも受け入れられ、そして、誰もが笑顔になれる魅力あるまちづくりを目指しています。

SDGs 達成の担い手育成事業

区立小・中学校 全30校は、豊島区教育委員会 学校SDGs推進アドバイザー阿部 治先生の助言のもと、保護者・地域・企業・大学が協働で取組を推進し、大人も子供もともに持続発展都市を作り上げる担い手を育成する「SDGs達成の担い手育成事業」に取り組んでいます。

各学校では、SDGs達成に向けて、「外部人材や地域資源を活用した取組」・「自分ごと化を進めるための体験的な取組」・「教育環境を整備する取組」の3つを柱に、各学校が趣向を凝らして協働による取組を進めています。



▲高南小学校 アルティメット体験 ▲池袋本町小学校 3つの「あい」(自分・ISS・藍) ▲高松小学校 ペットボトルフラワーロード ▲巣鴨北中学校 Cheer 庚申塚地藏通り商店街 ▲千川中学校 D級ポンプで消防訓練

教育委員会SDGsアドバイザー

■学校SDGs推進アドバイザー 阿部 治 氏（立教大学名誉教授）

SDGsの専門知識や見識に基づき、教員・職員に向けた研修や、SDGs達成に向けた学校や教育委員会の取組に対して、様々なご助言をいただいております。

■SDGs環境教育アドバイザー 榎野 光路 氏（大正大学社会共生学部公共政策学科 兼任講師）

校内のビオトープ等を拠点とした環境教育活動や学校と地域の協働活動の推進に関して、学校での研修やワークショップ等によりご助言をいただいております。



学校SDGsウィーク

各学校の様々な取組を、公開授業等の機会を活用し、保護者や地域の方々に発信しました。令和4年度は「学校SDGsウィーク」として、11月5日（土曜）または12日（土曜）をはさむ1週間を各学校で設定し、この機会に子供たちだけでなく、地域の方々にもSDGs達成に向けた「自分ごと」化の意識をもっていただけるよう、取組を発信しました。

SDGs フェスティバル

令和4年11月に豊島区立芸術文化劇場（東京建物 Brillia HALL）で「SDGsフェスティバル」を開催しました。区立中学校生徒2名が司会を務め、区立小学校5校、区立中学校2校の総勢100名を超える子供たちや地域の方々がステージに立ち、SDGs達成に向けた取組を発信しました。

子供たちは今、大人たちの力を借りながら、世界の問題を「自分ごと」化し、自ら考えてアクションを起こしています。「SDGsフェスティバル」の取組発信は、子供も大人も手を取りあって、一人ひとりがSDGs達成の担い手として、「誰一人取り残さない」豊島区の未来をみんなで考え、行動に移していくきっかけとなりました。



▲「SDGsフェスティバル」の様子 令和4年11月・豊島区立芸術文化劇場（東京建物 Brillia HALL）

地球規模の目標を自分たちの課題ととらえ、行動に移し、オールとしまで、誰一人取り残さない豊島区の未来を考えていきます。

